

イザヤ書 第53章 2節b

「彼には、私たちが見とれるような姿もなく、輝きもなく、私たちが慕うような見ばえもない。」

民主と自由を願い運動を進めてきた若者が捕らえられ、フラッシュを浴びせられる中、車中に押し込められてゆく。一瞬をとらえた写真がまたたく間に世界のあちこちで放映される。眼鏡の奥に見える恐怖、乱れる髪が瞬時の逮捕劇であったことを物語る。無言のうちに住まいを後にする姿は市民の自由を強奪する強権力そのものである。権力側と向き合い自由を死守する者たちの映像。闇と光が映し出される。同胞が互いに向き合う。

権力側は胸を張って、捕らえた者を堂々と連行する。周りは何の手出しもしないし、出来ない。背後で操る権力の手に怯えるばかりである。連行される者には、見とれるような姿なく、顔に輝きもなく、見栄えらしきものはなにもない。あるのは無口のまま連れ去られる姿だ。

世の権力側に在る者から見れば、引き出されてゆく者の姿は弱く、いまにも崩れ倒れそうに見える。その表情は苦悩に満ち、恐れさえ覆っている。それでも、連行される者のところのうちには、自由の炎が燃えている。この思いの同伴者となるべく、輝きを捨て、見栄えも捨て、いのちさえ捨てる道を行かれたイエスがおられる。